

# さなぎ達通信

平成 24 年 7 月号

VOL.30



特定非営利活動法人 さなぎ達

email:sanagitachi@nifty.com

〒231-0026 横浜市中区寿町 3-9-8 TEL:045-228-1055

皆さまのおかげで、2012 年 4 月より「認定」NPO 法人を取得できました。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 寿から始まる横浜、日本の未来

横浜の歴史において、寿地区はその時々重要な役割を担ってきました。吉田新田の埋立地としてスタートし、明治、大正期は関外地区に張り巡らされた運河の「駅」として賑わいました。

その後、太平洋戦争が勃発し、1945 年、横浜は米軍の大空襲にさらされました。中心地であった関内、関外地区は焦土と化し、終戦後は主要部分を米軍に接収されました。寿地区もその中に入っていました。

横浜はそれでも果敢に立ち直ります。朝鮮戦争、ベトナム戦争も戦後復興に拍車をかけました。米軍の基地があったので、港湾を初めとして雇用が多く発生したのです。

仕事を求めて横浜に労働力が集まりました。続く高度経済成長期で港湾の整備、みなとみらいの建設、ベイブリッジ、海浜の埋立などが行われ、需要はさらに増しました。こうした現場で汗を流して働いていたのは、多くが日雇い労働者です。

彼らの宿として誕生したのが簡易宿泊所街。寿地区に当初は数軒。その後、桜木町にあった職業安定所がこの地へ移転したことで、現在のようにホテルが林立する場所となりました。

危険な現場で、労働者達は重労働に明け暮れました。その疲れを一時でも忘れるため、酒や博打に走った人も多かったでしょう。

しかし、華やかな横浜都心部が完成し、高度経済成長期が終わった時、彼らはすっかり歳をとり、帰る故郷や家族すら失っていました。

このような高齢者が、寿地区には少なくありません。彼らのほとんどが身寄りもなく、病を抱え、生活保護に頼っています。横浜は景観を称賛される大都市ですが、その礎となった人達は、褒められる



さなぎ達理事 山崎 洋子

小説家。主に広報担当として、今年度よりさなぎ達の理事に就任。

こともなく、簡易宿泊所の狭い部屋でひっそりと老いていくのです。

また、一方で寿地区は、若い世代の流入も増加の一途をたどっています。彼らの多くが精神障害、知的障害、リストラ、派遣切り、アルコール、ギャンブル、覚醒剤など問題を抱えています。

家族の援助もなく、行く宛てもない人達です。でもこの閉塞的な状況は寿地区だけのことでしょうか。

NPO「さなぎ達」は、10 年以上も前から、寿地区の高齢化、孤独死、孤立死という問題に照準を合わせてきました。このようなことは寿地区だけではなく、日本全体の問題になると予測していました。

残念ながら、その通りになったようです。

さいわい、私達はそれに対するノウハウを得つつあります。「さなぎ達」を設立してから 11 年。「さなぎの家（就労・生活支援、メンタルサポート）」「さなぎ食堂」「KMVP（寿みまもりボランティアプログラム）」などの活動を通じて、地道に培ってきたものです。

私達は寿地区を、単なる「福祉の町」と位置づけではおりません。若い人には未来への道を開き、高齢者は孤独死させないよう、チームを組んで看取る……そうした、希望と温もりのある場にすべく、活動してまいりました。

近い将来、このノウハウを、寿地区以外にも広げていけるのではないかと自負しております。

あなたの大切なお時間を、どうか私達に少しでも割いてください。私達の話に耳をかたむけ、共に考え、ご支援をいただけたらと切に願っております。

## 特集：「さなぎの家」の活動



「さなぎの家」では、利用者さんと一緒に様々な活動を行っています。今回は、毎週行っている清掃活動のレポートをお届けします。清掃場所は、駅周辺や、高速道路の下を流れる両岸の道路や植え込み、近隣の駐車場など寿地区周辺を回っています。

この日の参加メンバーは5人。日頃からボランティアとして関わってくれている3人と、スタッフ2人で目的地・JR 石川町駅へ向かいます。各自、ほうきやちりとりを準備し、軍手とごみ袋も忘れずに持っていきます。あ、トングの数が足りない…

「さなぎの家」から駅までは、歩いて5分。着いたら、早速掃除に取り掛かります。

まず目につくのが「たばこの吸い殻」。近年、喫煙者にとっては肩身の狭い時代になり、歩行中の喫煙はほとんど見かけなくなりましたが、駅北口前や飲食店の密集している所には、多く捨てられています。



道路の脇の植え込みには、壊れたビニール傘・ペットボトル・衣類などが捨てられています。こういう人目の付きにくい所に、ごみが溜まっていたりします。中には、路上生活者の方が集めたと思われる「換金できるもの」(アルミ缶など)が隠されているのですが、これらは路上生活者の財産なので、そのままにしておくようにします。

人通りの多い駅前では、ねこをよく見かけます。この辺りには「ねこシェルター」があり、いくつかの「ねこ小屋」が置かれています。とはいっても、段ボールやアルミの一斗缶で作られているので、最初はゴミがまためて捨てられているのかと思いました。ここで飼っているのか疑問ですが、周りには、猫の愛護団体のポスターも貼られていて、法律や罰則まで書かれています。

1時間ほどで、ごみ袋もいっぱいになりました。今日はこれで終わりにしましょう。おつかれさまでした！



「さなぎの家」では、清掃活動などをお手伝い頂いた方にスタンプカードを作っています。参加される度にスタンプを押し、5個たまると「さなぎの食堂」の食券を1枚差し上げています。

周辺地域の清掃活動というひとつのコミュニケーションを通じて、利用者さんも少しずつ明るくなっていくのを感じます。今後参加される方が、増えてくれば良いと思っています。

**\*一緒に活動するボランティアさん募集中\***

緑化活動や月に一度イベントなども行っています。ご一緒に活動しませんか？お気軽にご参加下さい！

## 今号の〇〇さん

今回は、寿 JUMP\*の参加者をご紹介します。「さなぎの食堂」で、いつも元気いっぱいに働いています。

名前：青木和敏

これまでの経緯：

山形で、七人兄妹の末っ子として生まれました。16歳の時上京し、池袋で「トンカツ屋」に就職しました。退職後は横浜→大阪→博多→大分→横浜と移り、ほとんどの土地でパチンコ屋に勤めていました。大分では、牧場で畑や牛などの世話をしました。

今の暮らしについて：趣味はパチンコ。週5日、食堂で働いています。最初に勤めたトンカツ屋での仕事の経験が役に立っています。

今後について：特にやりたい事はないですが、まだ63歳なので、仕事を生きがいとして頑張りたいと思っています。

どの仕事も楽しく辛い事はなかったと言う青木さん、これからも元気に働いている姿を見せて下さい！

\*寿 JUMP とは

働くことを通して、生きがいや自信を創出することを目的に、一人一人に寄添いながら生活・就労・メンタルケアを継続的・包括的にサポートを行う事業。

## 「さなぎの食堂」のお知らせ



この度、お客様からの「相席で顔を合わせるのは食べづらい」「外からの通行人に見られるのが嫌だ」などの声を反映し、レイアウトの一部変更を行いました。

通路を広くし、料理を持ったままでも行き来の出来る余裕のあるスペースを確保しました。(当食堂は、レジで精算して料理を受取り、好きな席で食べて頂くスタイル。)

座席数は減りましたが、カウンタースペースの活用場所を増やし、立ったままでも気軽に食べられるようになりました。また、車いすの方専用の座席を設けました。

年々客数の減少に歯止めが利かず、何とか打開策をと、議論を重ねている段階です。今後はメニュー開発などに取り組む予定です。是非ご期待下さい！



## 寿への入り口～さなぎの食堂との出会い 2002～③

【怪物と家族】 5月から寿の愛され怪物：Fくんの食堂お手伝いが始まった。独特のしゃがれ声で、見た目は青年だが中身は子供、何かと手は掛かるが、どこかニクメナイ。

彼は目と耳が悪い。滑舌も難があり、指示は何十回も同じことを教える必要がある。小さなことで不安になりやすいが、3秒もあれば機嫌は直る。どうやら、胸をさすっているときは「不安」、ポッコリ出たお腹をポンポン！と叩くときは「よしいくぞっ！」というようだ。怪物の正体がだんだん分かってきた。

「食堂でアルバイトになりたいんだ！」という大きな目標を目指し、朝と夕にホールの掃き掃除とモップがけ、ダンボール運びを頑張っている。掃除がある日は、お昼に食堂のスタッフたちとご飯を食べるのが日課だ。彼は、女の人と生姜焼きが大好きで、いつも美味しそうに食べながら、テーブルと床にまき散らしている。頼むから、芸術は食べ物以外でやってほしいなあ。

賑やかな家族がまた一人増えた。スペシウム光線の練習もしておこう。

店長に就任して4ヶ月が経ちました。試行錯誤の連続、何かと忙しい毎日ではありますが楽しく働いています。皆様のご来店お待ちしております。岡野 慶光

## データブック

	3月	4月	5月
さなぎの家 利用者(人)	3453	3496	3886
物品配布数	2456	3082	3348
木曜パトロール 野宿者総数(人)	452	243	274
寿 JUMP 参加者(人)	1	1	1

※ 木曜パトロールは、11月～3月は毎週木曜日(4,5回実施) 4月～10月は第2、第4木曜日(2回実施)、に行っています。